





大手5社のシェアは60・5%と前月から0・6%縮小した。

**輸入件数5%増**

3カ月ぶりプラス

JAF Aがまとめた4月の国際航空貨物の輸入取り扱い実績(通関ヘリス)は、件数が前年同月比5%増の20万6000件と3カ月ぶりに増加した。重量は8%増の8万9800トと21カ月連続のプラス。

リーマン・ショック前の2007年4月と比べ、件数が21%減、重量が4%減だった。

# 求車サービス

## PS・AI活用も

水車サービスを利用した最適配送ルート案の発表

年度会員数獲得1000社。年末サービスでは、測位システムと空車情報の顧客間で発生する実際の運賃取引には介在せず、

運賃支払い・回収、荷物の破損・紛失などに関しても荷主・運送会社の2社間で行う。オプションで運賃保証サービスを提供することは可能だ。

6月21日からのサービスでは1回限りの輸送のマッチングや、一定期間の継続輸送の相見積もりなどの機能を提供する。さらに12月からは第2弾として、車両に搭載したGPS情報と空車情報を連動させ、荷主に位置情報、配送状況のリアルタイムで提供。空車情報を優先した荷物情報の自動検索も可能となる。

また、AIを活用し過去の求車情報、GPSの累積データを基に、荷主や運送会社の条件に合う新規需要予測情報を提供。既存業務での配送計画を加味した新規荷物情報の提供や最適配送ルート立案の支援サービスも提供する。

タイの物流業界は慢性的な渋滞、貨物の配達遅延に加え、紛失・破損など品質面でもさまざまな課題を抱えている。世界

銀行が発表している物流の効率性指標(LPI)では世界45位で、輸送効率や輸送品質面で遅れを取っている。

矢崎ES、DTCの2社はタイの運送業界が抱える安全・省エネ・環境問題などを具体的に解決するため、商用車用テレマティクスサービスを展開しており、機器の装着台数ベースでは最大シェアを有する。既存の顧客から、国内同様の求車サービスへの要望が多寄せられていた。両社は日本国内で求車サービスを広げ展開するトラボックスと、協業化で

### 中小企業支援税制

### 業界団体が継続要望

総会

自民党の物流倉庫振興推進議員連盟(会長・望月義夫元環境相)の第8回総会が23日、東京都千代田区の同党本部で開かれ、日本倉庫協会(会長・木納裕三井倉庫社長)、日本冷蔵倉庫協会(会長

合意し、今回の事業化を決めた。

**兵機海運**

**神戸港に新倉庫**

来年4月本格稼働

【関西】兵機海運(本社・神戸市、大東洋治社長)は22日、取扱貨物量の増大に対応するため、神戸市兵庫区の港頭地区に新たに倉庫3棟を建設すると発表した。7月上旬に着工し、来年4月の本格稼働を予定する。総投資額は約9億円。

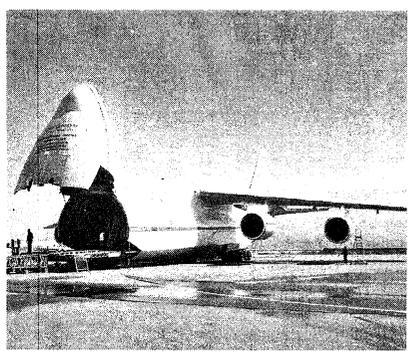
新倉庫は、約1万平方メートルの借地に建設。3棟とも平屋建て構造で、延べ

床面積は4770平方メートル。主に輸出貨物を取り扱う摩耶倉庫(神戸市灘区摩耶埠頭、延べ床面積4525平方メートル)が飽和状態で、付属設備なども老朽化が進んでいることから、上屋・倉庫事業の効率性を高め、業容を拡大するため新倉庫を建設することにした。

同社では(新倉庫建設で)新たな商圏を開拓・拡大するとともに、海運貨物取扱事業との相乗効果を高めていきたい」としており、土地取得については今後の状況を見ながら判断することとしている。



三河港明海地区



シー&エアが行われている中部空港

を区分し

設が進んでいる。バイオマスをさまざまな事業者が検討、調整している状況。今後、燃料として大量のバルク貨物が入ってくることを想定すると、岸壁や道路の整備は考えなければいけない。実際、田原地区の公共岸壁は、増

「なぜこのビジョンを出したのか」ということを、関係する事業者、団体にアピールしていきたい。当然、港は経済活動と強く結び付いていて、行政だけで何かできるわけではない。民間と行政、お互いが何を考えているか、何を共同して動かか考えていきたい。今回のビジョンはあくまで方向性。事業者の方々が新たな物流を構築する、

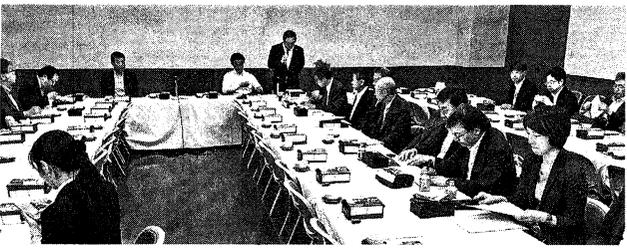
### 新たな物流の布石に

今後の具体的な取り組みを聞き

**京浜海貨**

**環境変化に対応**

京浜海運貨物取扱同業会は23日、横浜市内で2018年度総会を開き、事業計画などを承認した。京浜港の集荷、創貨、



日倉協・冷蔵倉庫協と

・大谷邦夫ニチレイ社長)の倉庫業界2団体は来年度の予算・税制に関する要望を行った。日倉真。

また冷蔵倉庫協は、19年度予算編成に際し、冷蔵倉庫への省エネ型自然冷媒機器の導入補助対象として営業冷蔵倉庫の優先採択を要望。また再生可能エネルギーにかかる賦課金減免を、製造業などと同様の減免率とするよう求めた。

総会では国土交通省の重田雅史物流審議官らが政策概要などを説明。出席議員が物流効率化施策などに関する質疑・討議を行った。

は、京浜港の現況についてコンテナターミナル周辺の渋滞緩和が喫緊の課題と指摘。「横浜・南本牧埠頭のICTを活用したコンテナ輸送の効率化に向けた試験運用が効率化につながることを期待